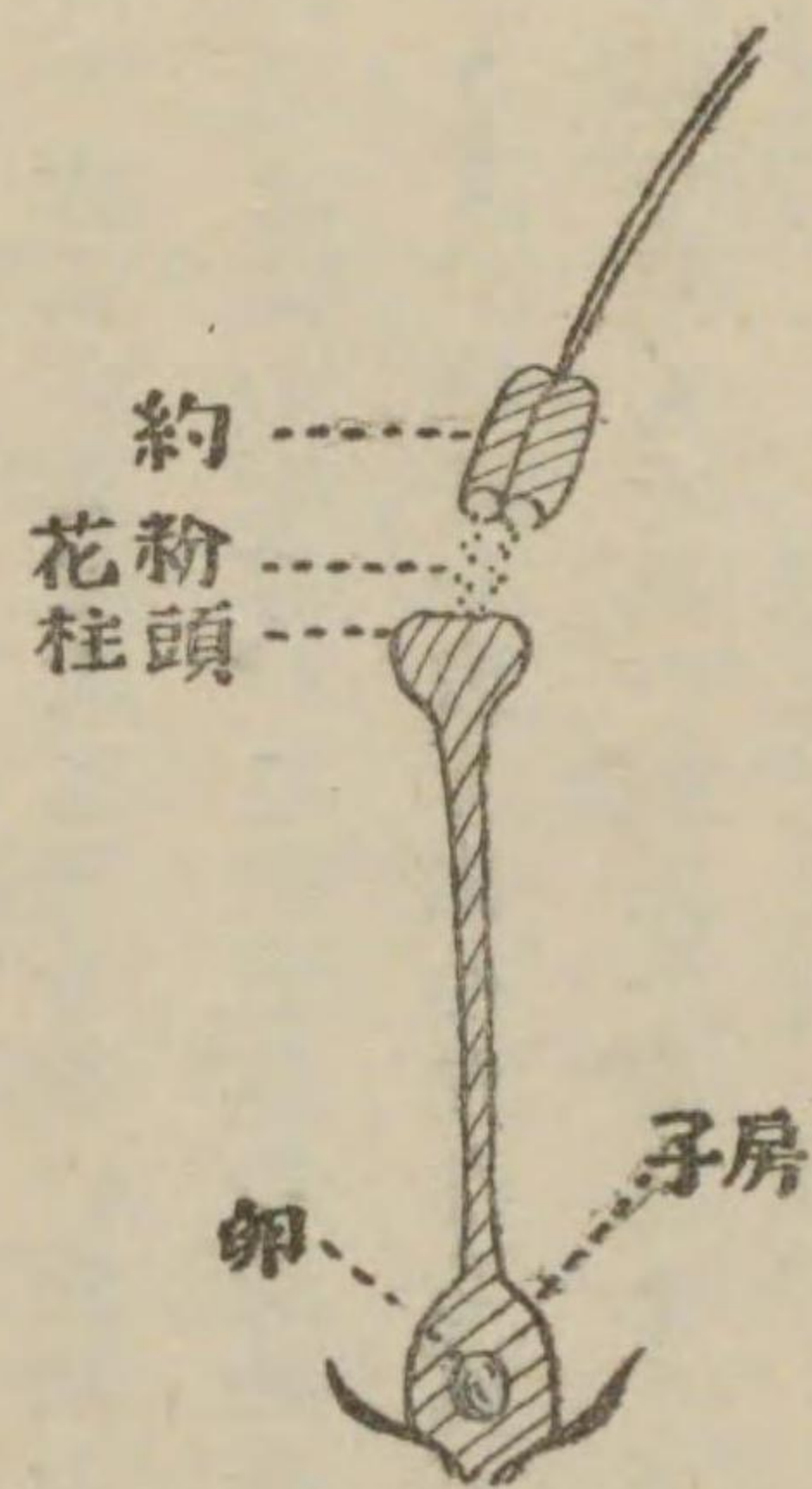


ます、筆又は羽根で花粉を媒助する人もありますが其れよりも直接雄蕊を運ぶ方が受粉が完全に行なはれます。

受粉作用



どん／＼伸びて下にある子房と云ふものに達し子房の中にある『卵』と花粉管の中から出て来る『精子』と一緒になつて初めて受精が行はれるので

こうして受粉が終つたらば再びすぐに袋で包んでしまひます、これで人工交配の作業は終つたわけです
花粉が一旦柱頭に着くと目には見へませんが花粉管と云ふものを出して其れが

あります受精がすむと子房はずん／＼大きくなり初めるのです。

この受精が出来たか否かを知るには袋をとつて見て柱頭が黒ずんで居ればもう安心なものです、こうなればパラピンの袋は取去つてしまひ、交配した品種及び其の期日を明記した小さいブリキ板又は木札を標しに付け空気の流通の好く陽當りの好いところに出して液肥を忘れずに施します、種木の肥料としては普通油粕の他に加里肥料としての木灰、燐酸肥料としての過燐酸石灰を少量づゝ施すことも必要です。

肥料が強過ぎると實が割れたり實が落ちてしまひますから注意しなければなりません。

阜月の實は六十日—七十日で成熟しますが私の實驗では採種するには受粉後八十日—九十日目最も適當である様に思ひます。

餘り永く放つて置くに實が熟し過ぎて割れて中の種子が分散するおそれがありますから、實の割れぬ中に採つて袋に入れて家の中の好く乾燥する様などところに吊して置くに十日もたつと袋の中で割れて種子が出て來るでせう。

殻をすて、種子だけを選出して交配關係を標して蒔く時迄貯へて置きます。

阜月種子の蒔き方

阜月の種子の蒔き方は普通草花の種子の蒔き方とは大變其の趣を異にして居ます。

阜月の種子を蒔く時季は十月から十一月月上旬即ち「採り播き」にす

るのが好いと思ひます、都合によつては四月迄貯へて置いてからまいてもさしつかへありませんが、秋蒔の方が早く生長します。

播種するに當つては豫じめ播床の用意をしなければなりません。

播床としてまづ箱又は平鉢を用ひ、箱の大きさは深さ二寸五分位、長さ一尺二寸、巾五寸位が適當でせう、挿芽に使用して居る箱と同様のものでも好いのであります。

箱の底面は板をすかして打付けて置きます、箱の用意が出来たならばまづ箱の底の方には細かい木灰又は荒砂を入れて排水を好くし其の上に鹿沼土の荒い部分を入れ平にならし尙其の上に鹿沼土を細かく篩つたものと水苔を細かにきざんだものをまぜて五、六分の厚さに入れ好く平にして掌で軽く押して細かい目の如露で灌水すると土がズツト落着いて來ます。

圖 甲

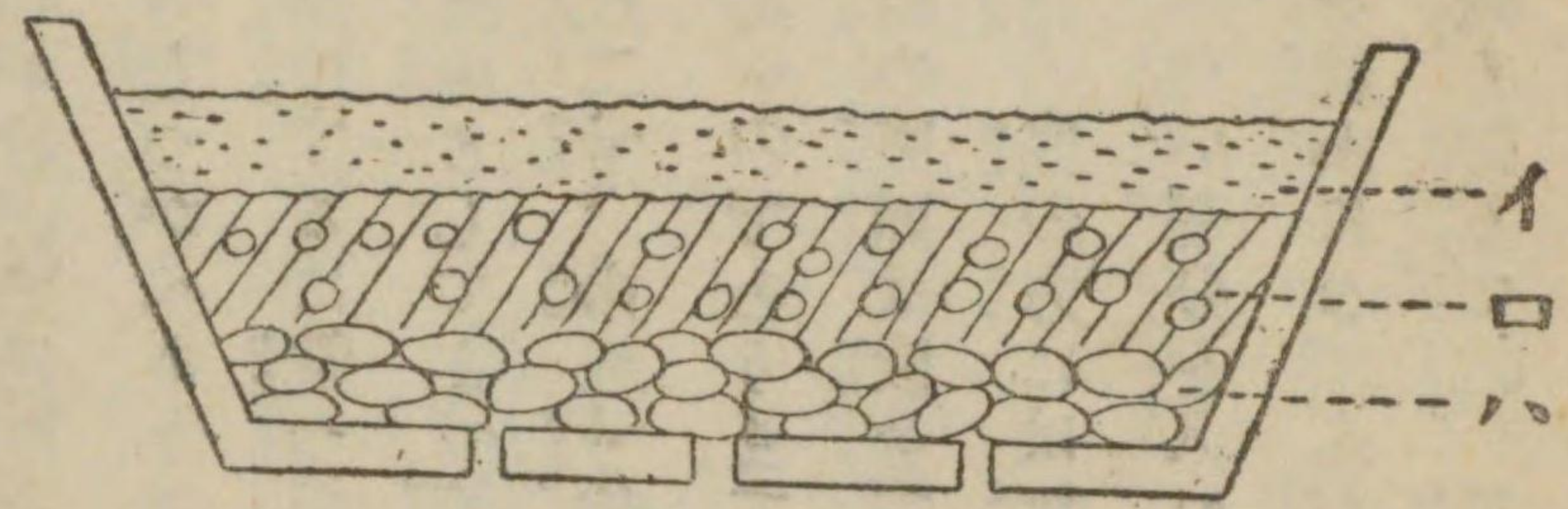
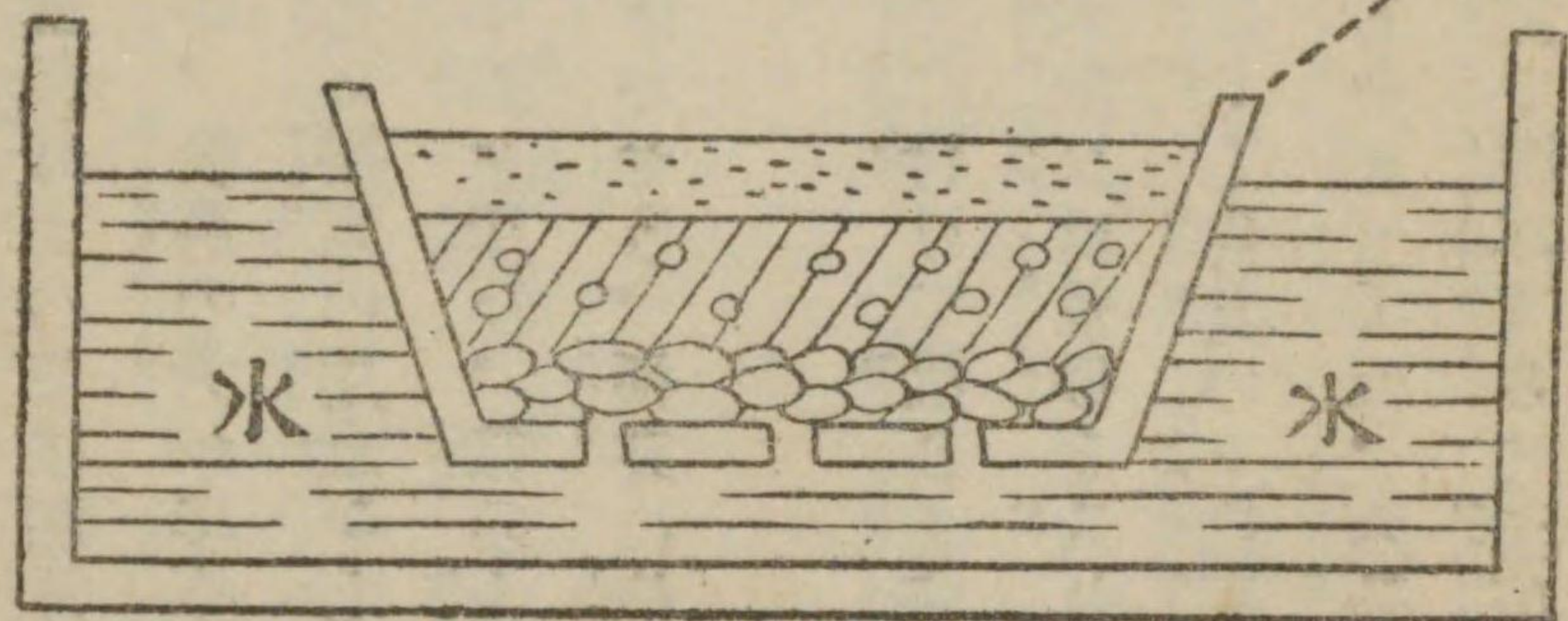


圖 乙



甲 圖

は鉢に土の入れ方
イ、細かい鹿沼土と細
かい水苔を混ぜた
もの。

ロ、少し荒い鹿沼土
ハ、木炭の細かいもの
又は荒砂

乙 圖

は下より灌水する方法

こうして播床が出来上つたならば種子を下します。

種子を播き終へたならば箱の上に新聞紙を覆ふて葭簾の下に置いて乾き過ぎない様に、灌水に注意するならば十日目乃至十五日目位で容易に開芽します。

播種後の灌水は水を上から如露で掛けてはなりません、平たい器に水を満し其の中にソット浸して下から水を浸みこませる様にしなければならぬのであります。

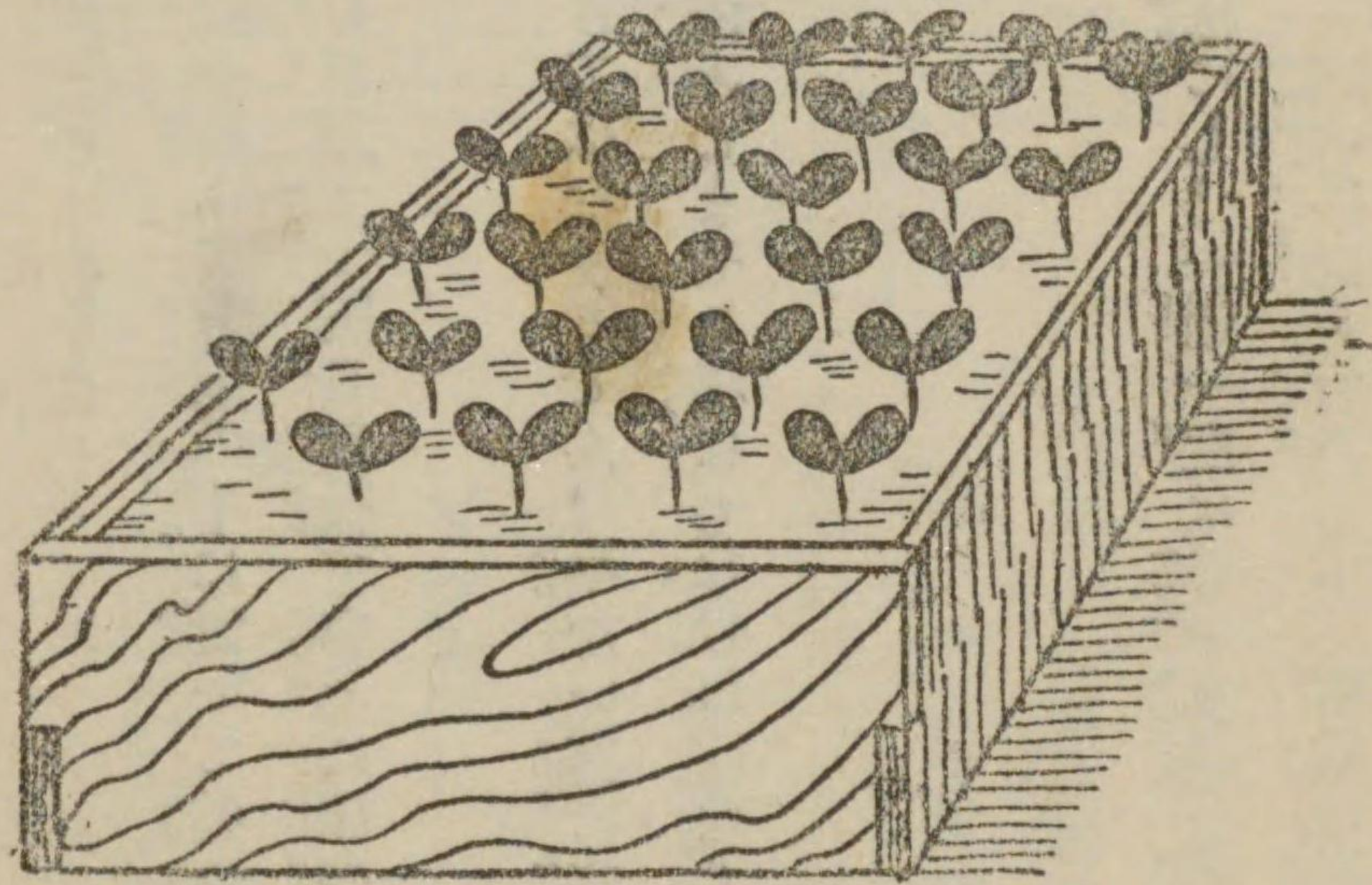
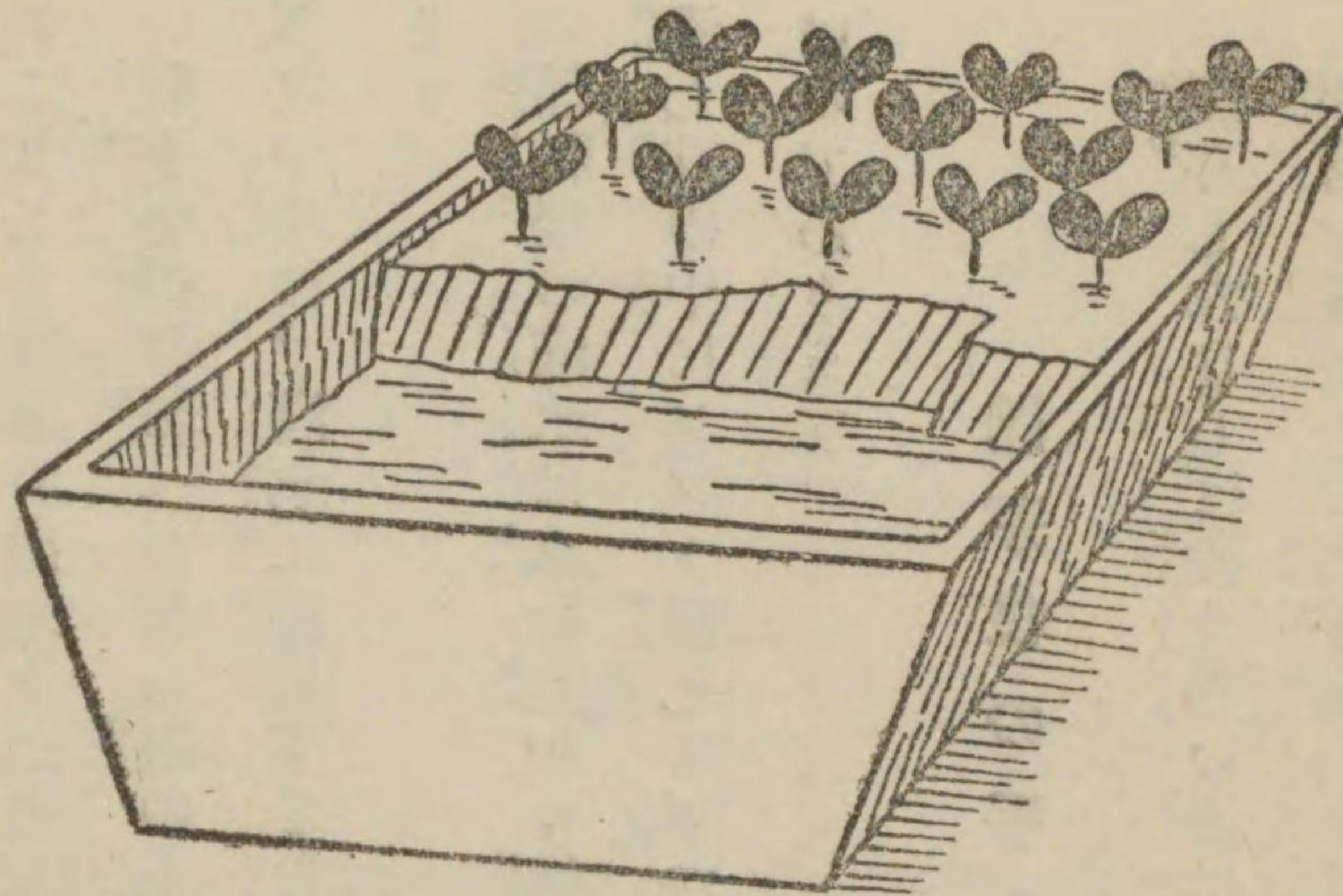
開芽後の手入

開芽したならば段々強い陽にあてる様にし、一週一度は必ず水肥を施して開育を促がして開芽後一ヶ月位で第一回の移殖を行ひます。移殖は外の

箱はこをようい用意しこれにはなるべく細こまかい鹿沼土かぬまつちと水苔みづこけを混こんじたものを入いれてこれに苗なへを竹たけのピンセットで一本ほん々々くはさんで植替うゑかへるので、其その中なかは一寸位すんぐらゐ株かぶの間あひだが五分位ぶぐらゐで好いいでせう、苗なへの育たつに従したがつて段々だんぐと廣ひろい外ほかの箱はこに移植いしよくして行ゆきますす。

こうして年ねんに三度さんど、四度位よんどころの植替うゑかへをして出で來きるだけ苗なへの發育はつよくを促うながして行ゆきます、若もし植替うゑかへの手數てすうをはぶくには最初さいしよから廣ひろい間隔かんかくで植うへれば好いいですが、開育かいよく上じやう面白おもしろくありません。冬期たうきには寒地かんちでは木框きがまちを温室をんしつ内に取込とりこんで凍こるのを防ふせぎますす。

かくして播種はんしゆ後普通ふつう三年目ねんめになると實生種みしやうたねの花はなを見みることが出で來きますか、澤山たくさんの花はなの中なかから自じ分ぶんの目的もくてきとする花はなを選えらびだせば好いいのであります、目的もくてきに適てきしないもの、目的もくてきに適てきしたものがない場合ばあひでも失しつ望ぼうしないで其そ



の際、目的に近い性質のものを選んでこの花の自花受粉をしてこれを、再び蒔いて花を調べるといふ様にして何度か同様のことをくり返せば必ず好い『變り花』を選出することが出来ます。一度出来たならば今度は挿芽に依つてどんなにでも繁殖して行くことが出来るのであります。かくして苦心して『變り花』は自分で名を付して新花として世に發表すればたちまちに阜月界の人氣をひいて永久に記念として末代までも残る理であります。

害蟲驅除法

植物には、何であつても、兎角害蟲のつき易いものであります。その害蟲の種類も多いので、植物につく害蟲といへば、油虫、蕾虫、蓑虫、軍配虫、芽喰虫、貝殻虫其他澤山あります。つきにも是等の害蟲が競ひ來つて、そして花期に入る前から、花期にわたつて、あの美しい、氣品のある花を荒らしてしまふのであります。

殊にさつきを好んで襲つて來る害蟲は、軍配虫であります。

此の虫の害は實に猛烈であつて、全く樹の生育を妨げ、枯らしてしまふ程のことをやります。

體長は僅かな蟲であつて、一分弱で、其の幼虫は一見して、木虱の如く

この虫は常にさつきの葉裏に群がり集まつて附着し、葉緑を吸ひ取つてしまふのであります。

成蟲になつたのは、翅が生じて、丁度其の形が軍配のやうな様ですから軍配蟲といふ名があるので、若し、此の蟲が附着したことを知らずに居ると、大切なさつきを枯らしてしまふことになりすから、注意して驅除に つとめなければなりません。

蓄蟲は、多く東北地方に居る蟲ですが、往々他の地方にも見掛けることがあります。此の蟲は、秋から冬にかけて、蓄の側面から、小さい穴を明けて、蓄の中に侵入して行く、極く小さい茶褐色をした害蟲であります。ですから、一寸見たところでは、此の害蟲が、蓄に侵入したか、しないか、分りません。併し此の蟲の侵入を受けますと、花時になつても開花しま

せんから、初めて蓄蟲の侵入を受けたといふ事が分るのであります。故に常に能く注意して、驅除に つとめなければなりません。

其の他の害蟲についても、注意して驅除するやうに努むべきであります。

ところで、是等の害蟲を驅除いたしますには、どうしたならばよいかと申しますと、春季八十八夜前後から、二週間に一回位づ、殺蟲劑を噴霧器で灌ぎかけるのであります。油蟲や軍配蟲は、多く葉裏に居りますから葉裏から、殺蟲劑を灌ぎかけるのであります。

これに用ゆる噴霧器は、大體に於てさつきは、さう大きい樹積、樹容でありませんから、小形を用ひて、そして枝及び葉裏といふやうに殺蟲劑を灌ぎ、根には成るべくかけないやうにするのであります。

それには若し鉢植ゑでありましたならば、鉢を斜めに傾けて、そして葉裏に灌ぐやうにするのです。さうしますと、根の方へは、ホンの滴りが落ちる位ですみます。若し又どうかした拍子に殺蟲劑が根の方に、多く掛りましたならば、汲み置きおきの清水しみづを澤山たくさんに鉢土はちつちに灌ぎかけて、根を洗つてしまふのであります。それは殺蟲劑が根に多くかゝると、樹の爲めに悪いらす。

さつきの花

何の植物なん しよくぶつでも、鉢植はちちうゑとして觀賞くわんしやうしやうとするには、どうしても鉢との調和てうわを考へねばならぬものであります。殊ことにさつきの如ごとき、樹容じゆようをも觀賞くわんしやうするものしやうにありましては、尙更鉢なほさらはちに就ついても考へねばならぬのであります。

して、その調和てうわを圖はかることが大切たいせつであります。

如何いかに美うつくしい、又花形またはながたのよい花はなが咲さきましても、鉢はちがこれに調和てうわしなかつたならば、其その觀賞くわんしやうについて、感じかんが大分減たいぶんげんじられてしまひます。

鉢植はちちうゑの物ものは、木振きぶりと鉢はちの形かたち、花はなの色彩しきさいと鉢はちの色いろとが、相調和あひてうわするやうにするのが、その鉢植はちちうゑ植物しよくぶつの眞まの美びをあらはさしめる大眼目たいがいもくでありますから、これにもよく注意ちういを拂はらふことが大切たいせつであります。

從來いらいの鉢植はちちうゑを見みますと、斯かういふ點てんについて大分注意ちういを缺かいて居ゐるのであります。殊ことにさつきの鉢植はちちうゑを見みますと、殆たいていんど鉢はちといふことについての考へが没却ぼつじやくされて居ゐるのであります。これは如何いかにも遺憾いひげん千萬せんまんの事ことに思おもふのであります。

鉢の色

然らば、どういふ色彩の花には、どういふ色の鉢を用うべきであるか、どういふ樹振りのものには、どういふ形の鉢を用うべきかと申しますと、先づ鉢の色から述べますならば、赤色若しくは、赤色系の色彩のさつきを植ゑますには、矢張りその花の色彩と相似た色の鉢を用ゆるのであります。又白色の花であつたならば、薄青とか薄黄の系統の鉢を用ゆるのであります。若し赤の色彩ある花に、白色の鉢、白色の花に、白色の鉢を用ゐましたならば、其の鉢の色の爲めに、花の色彩が奪はれてしまひます。

若木と老木

ところで、こん度は、若木を植ゑる鉢と、老木を植ゑる鉢と、その木の年齢に依つても、鉢を異はせなければ、調和が取れません。五六年位の若木でありましたならば、樂焼風の鉢が調和して居り

老木でありましたならば、支那風の鉢が調和します。

兎に角、花の色彩、樹齡の老若に依つて、その植ゑべき鉢の選定にも、

深く注意すべきことを頭に入れて置いて、そして絞りとか、白とか、赤とか、黄とか、それらの色に調和し、又樹齡と、枝振りに依つても、其の

鉢の形なども考へて、調和するやうにすることが必要であります。

鉢の形状

鉢の色、と樹齡に依る鉢を注意するに就いて、もう一つ、今度、は鉢の形状にも注意を拂はねばなりません。楕圓形、長方形、四面形、圓形、いろ／＼鉢の形はありますから、これも調和をはかるやうにしなければなりません。

鉢の深淺

鉢の深淺についても、樹の形、枝振りに依つて、それ／＼に相違があります。浅い鉢、深い鉢、上が廣がつて、下のしぼんだ

鉢、それごとく選定しなければなりません。懸崖になつた枝振りならば、深い鉢が調和します。又幹が立つて居る丁度、傘のやうな樹容でありましたならば、浅い圓形の鉢が調和します。幹から左か右かの一方へ枝が張つたのでしたら、楕圓形の鉢が調和します。其他樹容は千態萬狀でありますから、各自栽培して居るさつさの樹容に従つてふさはしい形のものを選びべきであります。

素焼の鉢

今、栽培中のさつさに用ゐます鉢は、水の排泄もよいのですから、素焼の鉢を用ゐる方がよろしいのであります。併し素焼の鉢でありましたならば、灌水にも注意して、水分が餘りに失せないやうに灌水しなければなりません。灌水の事は、別項に詳しく説いた筈ですから、熟讀して下さい。

新花の作り方

新花に就いて

新花のつくり方は、卷末の篠原富川君の、『皇月の新花の作り方』を讀んで下されば、充分に了解することが出來やう

と思ひます。

ところで此のさつさが、今日斯くの如くに、津々浦々に至るまで流行して來ましたのは元來變化に富む性質を持つて居るからであります。そして眞のさつき熱愛家は、新花の作出に熱心になつて工夫して居り、茲に一本の新花が現はれたとすると、競ふてそれを購ふといふ風で、一芽の挿木でありまして、品種に依つては、三十圓、四十圓といふ高價に購はれて行くのであります。

然らば、此の新花の作出法は、どうするかと申しますと、即ち遺傳の法則に依るのであります。

従來の新花と稱へられたのは、枝變りや、自然的に變化したものであります。これでは十年に一本、二十年に一本を得るか、一向に見當のつかない譯で、如何にも張り合ひの無い譯であります。

それから又、遺傳の方則に依るなら、白と、赤とを交配したならば、その中間の物が出来るかと申しますと、さういふ方法では、決して新花を作出す事は出来ません。

遺傳の方則に學理的に、交配するのであります。さつきの樹性、樹系といふものを詳細に研究して、そして交配するのであります。これは實験遺傳の法則と稱するのであります。たゞ白と赤とを交配するこんな變則

的なり方とは全々違つて居ります。これに就ても、別項篠原氏の『皇月の變り花の作り方』を熟讀せられんことを望みます。

温室に於ける栽培

成長と温室

近來總ての植物を温室内に栽培して、開花を促すことが行はれて居ります。併しさつきは是等他の植物の如く、温室に於て開花を促すことは、殆どしないといつてもいいのであります。但し稚い苗即ち挿木の成長を促すために、専ら温室内に於て栽培することが行はれて居ります。

一體此のさつきは、一度芽止りをしますと、一本の梢頭から、數本の新しい芽が出て、心芽が立たないものであります。主幹を長くしやうとする

にはどうしても、芽止りをさせずに、ズン／＼と伸ばして行かねばならぬのであります。

斯ういふ譯で、春に挿木したものは、其の儘に露天に置きますと、秋になつて芽止りをしてしまひます。そして冬を越す支度として、樹質の硬化樹精の充實を圖るものであります。

元來さつきは灌木でありますから、成長は極めて遅々たるものでありますから、秋冬の冷氣に當てないで、温かなところへ置けば、芽止りをせず、ズン／＼と伸びて行くのであります。

それ故に秋の半ばから、冬期、初春にかけて、温室内に於て栽培いたしますと、幹は伸びて行き、枝は張り、これを露天に栽培したものに比しますと、非常の相違で、温室内栽培のさつきは、約三倍の成長をするのであ

ります。

温室の構造

温室の構造は別に大した設備の用はありません。又さつきは他の植物の如く、さう高く伸びるものではありませんから、フレームと温室とを折衷したやうな至極簡單なものでよろしいのであります。

温室の湿度

温室栽培のさつきには、空氣の湿度を適當に保たせるやうにしなければなりません。併し温室内の湿度を保たせるからといって、障子が曇るやうな湿度ではいけません。又温度も、中が餘りに温か過ぎて中に入ると、氣持悪くなるやうでもいけません。

灌水と肥料

灌水と肥料は、夏季に於けると同様にして、又害虫驅除も手落ち無く行つてやらねばならぬのであります。

又温度は、別にボイラーなどを設備なくとも、日中に障子から、太陽の光線を攝取するやうにし、日没からは、藁藎を覆ふて、タドンなり、炭火なりを埋けて置いて、攝氏の二十度から三十度位までの温度を保たせればよろしいのであります。

若し炭を埋けて置く場合ならば、一度、眞赤になつたもので無くてはいけません。悪臭のある物や、石炭などを焚いたのでは、その悪瓦斯の爲めさつきを枯らしてしまふことになりすから、餘程此邊に注意しなければなりません。

種々の注意

さつきの花つきをよくしやうとならば、平年の土用後に、新芽の固まる

頃に、充分に日光に當て、そして肥料を施すことが大切であります。春に發芽しましたものは、繁殖用として、入梅期に摘み取つて、挿木とし、そして親木に能く肥料を施せば、土用までに新梢を出し、そしてこれに蓄をつけるものであります。

美花を得るには、さつきの美花を得やうとするならば、開花前には、植ゑかへないことあります。

又開花眞際に多くの肥料を施すこともよろしくないのです、若しそれを考へずに多肥を施しますと、折角美しく咲かうとして居る花が、却つて退化して行き、枝頭が、徒らに伸びて行くことになりす。

ですから開花前には植替へせず、施肥せず、灌水を充分にし、そして強い日光に當てないやう、風雨にさらさぬやう、又晩れ咲きの物は、梅雨後

に咲くものですから、これには、梅雨上りの強い日光などを當てぬやうにするのであります。若し強い日光を當てますと、花は凋萎してしまひます。

それから曇天や雨天の永く續いた後には、特に注意しなければなりません。

又、日中は花を觀賞する爲めに、室内に置くことは、一向差支へありませんが、夜間は戸外に出して夜氣に當てねばならぬのであります。

それから、花がもう咲いてしまつて、すつかり精力の無くなつたものはこれを直ぐ花軸から摘み取つて、結實させるやうにしななければなりません。

さつきの作り方「終り」

昭和三年二月十日 印刷
昭和三年二月十五日 發行

定 價 金 一 圓

方り作のきつさ
製 復 許 不

編 者 園藝趣味普及會
發行者 湯 淺 脩 一
東京市日本橋區藥研堀町五十二番地
印刷者 小 笠 原 幸 吉
東京市神田區豊島町三十四番地

發 行 所

東京市日本橋區藥研堀町五十二番地
株 式 會 社 春 江 堂
電話浪花四八六二・振替東京一八〇六

57
19

趣味深くして利益絶大の小鳥飼育秘訣を公開

忽ち五版

家禽飼育會編

趣味と實益小鳥の飼ひ方

定價一圓廿錢
送料金八錢

◇四六判三百二十頁口繪寫眞版數葉付◇

春の鳥啼きを啼きそ
赤々ととのもの草に
日の入る夕べ 白秋
恐ろしき人の心にふ
れぬよう世の隅に妻
よ小鳥飼はまし夕暮

楽しみ乍ら金を儲ける！斯うした旨い條件付の仕事は世の中に一つもあるまい。否たつた一つある。それは小鳥飼養である。小鳥を愛撫しその美しい聲可憐な姿に接してゐる事は、その人の品性を知らずくの中に高める。盡きせぬ趣味に涵り精神を高尙にし乍ら而して金を儲けると言ふ一舉兩得の方法は本書に依つて遺憾なく盡されてゐる。乞ふ一本を備へられんことを……。

571
196

